

JENDL-3以降の計画検討小委員会第4回会合議事録

1. 日 時 昭和 61 年 3 月 10 日 (月) 13:30~17:00
2. 場 所 原研東海研, 研究 2 棟 221 号室
3. 出席者 五十嵐信一, 浅見哲夫, 中川庸雄, 片倉純一, 長谷川 明 (原研),
吉田 正 (NAIG), 中沢正治 (東大工)

4. 配布資料

- ⑨ レーザー濃縮法の概要と関連原子・分子データ
- ⑩ JENDL-3 以降の計画検討小委中間報告 (案)

5. 議 事

(1) 第 3 回の議事録について確認が行なわれた。

(2) 原子・分子関連核データについて

ウランのレーザー濃縮法の概要, 原子法, UF_6 による分子法, 多段階励起・イオン化プロセスのほか国内外の研究の現状, 研究課題について資料⑨により吉田委員 (村田氏の代理として) から説明された。関連する原子・分子のレベルデータおよび反応断面積データの概要について紹介され, ウランのレベルデータ等はレーザー法に必要なエネルギー分解能でみると 4 万個グライあり, 発光スペクトル線は 40 万本近くあること, これらのデータが 1980 年頃までは文献等に発表されていたがそれ以後公表されなくなり始めていること, 日本におけるデータベース作りが必要であると報告した。

以上の報告について討疑, 検討が行なわれ, その結果,

- 現在, 日本における原子・分子データの収集・評価活動は, 原子分子データ委 (白井氏他) が核融合プラズマ診断, NBI 用に JEAMDL ファイルを作成中である。
- 国内でこれらのデータ評価活動を行うとしたら原研が適当であろう。
- 今後, 原子・分子データのユーザーの声をよく聞いていて, 必要に応じデータ収集, 評価に着手することを考えることとする。

(3) 中間報告案の検討

配布資料⑩に基づき中間報告案が中沢委員より報告され検討された。その結果、

- 短期的活動は核融合および核燃料サイクルのための Special Purpose File とすること。
- 中、長期的には核融合次期装置設計用 JENDL-4 とか、高エネルギー加速器用などを目標とする。

以上の方針で運営委に説明することとした。

(4) 今後の進め方

① 4月22日(東京)

- 医学関係(喜多尾氏), Damage 関係(中沢委員)
- 一般的にシグマ委の役割, 今後の体制等につき木村逸郎先生
- 核データの利用, 促進方策(長谷川委員)

② 5月20日

- 荷電粒子データ関係および一般的意見(中嶋氏)
- Decomissioning 及び一般的意見(松延氏)
- 核データのPR活動(吉田委員)
- 放射線利用(富永室長)

③ 6月20日

- 測定分野の動向
- 最終報告の検討